

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立ゆいの杜小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 99人

② 算数 99人

5 留意事項

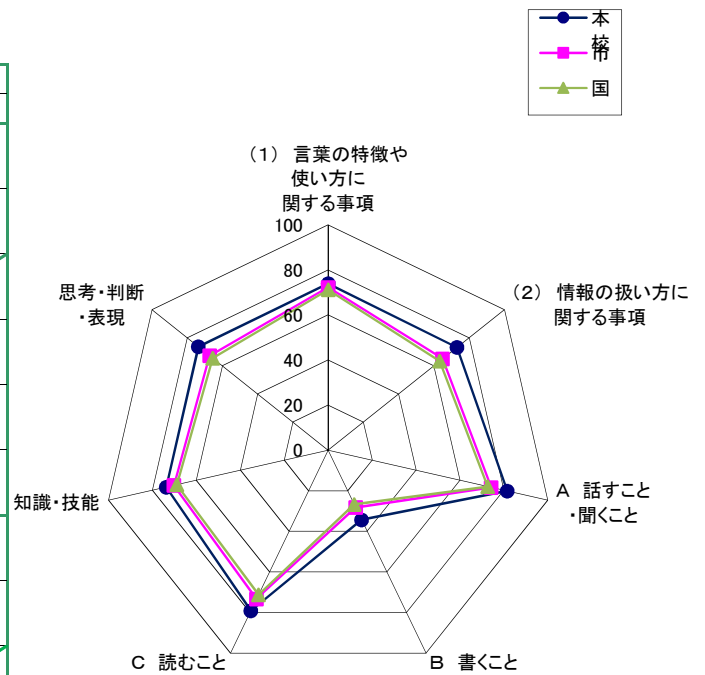
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立ゆいの杜小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.9	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	73.2	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	81.5	74.2	72.6
	B 書くこと	34.3	28.2	26.7
	C 読むこと	79.1	73.3	71.2
観点	知識・技能	73.7	70.2	68.9
	思考・判断・表現	73.7	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

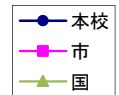
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均を上回った。</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う問題では、全国の正答率を2.7ポイント上回った。</p> <p>●日常よく使われる敬語を理解しているかどうかみる問題では、全国の正答率と同じであり、無回答率は8.1%であった。</p>	<p>・漢字テストへの目標をもった取組や日々の反復練習を実践していくとともに、新出漢字のみならず既習漢字も日々のノートへの記入や作文での活用ができるようにする。</p> <p>・児童の日常生活において、相手や場面に応じて、敬語を適切に使えるようにしていきたい。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均を上回った。</p> <p>○原因や結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかみる問題では、全国の正答率を11.1ポイント上回った。</p> <p>○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使う問題では、全国の正答率を8.7ポイント上回った。</p>	<p>・原因と結果、語句と語句など、情報と情報との関係を把握し、理解する活動を通して、話や文章で表現することができるようにする。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国平均を上回った。</p> <p>○必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える問題では、全国の正答率を約12ポイント上回っている。</p> <p>●目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題では、全国の正答率を2.5ポイント上回ったが、無回答率は6.1%であった。</p>	<p>・話し手の考えと、自分の考えを比較する経験を積み重ねることで、自分の考えを筋道立ててまとめられるようにしていきたい。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、全国平均を上回った。</p> <p>○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、全国の正答率を7.6ポイント上回った。</p> <p>●上記の問題の正答率は34.3%であり、また無回答率も6.1%となっており低い水準であった。</p>	<p>・本や文章などから、必要な語句や文を抜き出して、書く活動を取り入れていきたい。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、全国平均を上回った。</p> <p>○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題では、全国の正答率を10.4ポイント上回った。</p> <p>●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題では、全国の正答率は12.5ポイント上回っているが、無回答率が7.1%となっていた。</p>	<p>・文中の大切な事柄に線を引いたり、文のつながりを考えたりしながら、文章全体の内容を正確に読み取れるように指導する。</p> <p>・文章全体の要点を捉え、それを短い言葉でまとめることができるように接続詞の使い方などの文章の書き方を指導する。</p>

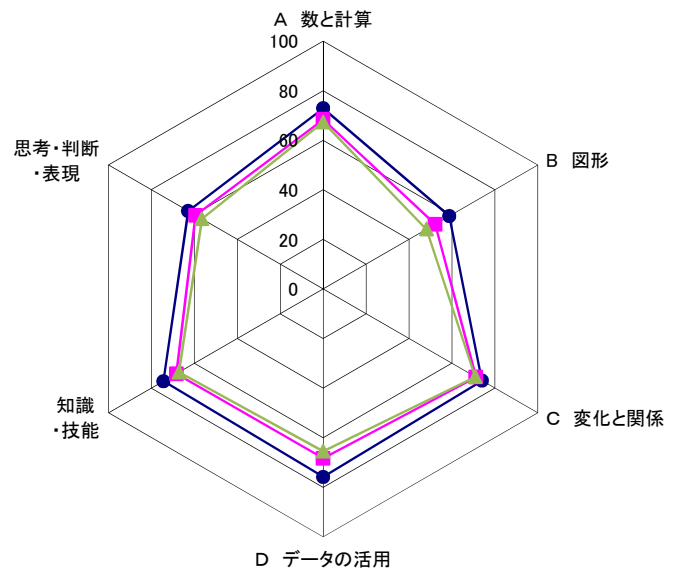
宇都宮市立ゆいの杜小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】



分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.9	68.4	67.3
	B 図形	58.8	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	74.0	71.2	70.9
	D データの活用	75.8	68.3	65.5
観点	知識・技能	74.4	68.4	67.2
	思考・判断・表現	62.9	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は全国平均と比べて5.6ポイント上回った。</p> <p>○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかを問う問題の平均正答率は県の平均と比べて10.2ポイント上回っている。</p> <p>●示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかを問う問題の平均正答率は県の平均正答率は全国平均と比べて10.6ポイント上回った。</p> <p>○高さが等しい三角形について底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題の平均正答率は県の平均と比べて15.7ポイント上回っている。</p> <p>●正三角形の意味や性質について理解しているかどうかを問う問題の正答率が低い。</p>	<p>・日常生活の場面を扱う活動を増やし、数値の関係を言葉や式で表現できるようにする。</p>
B 図形	<p>平均正答率は全国平均と比べて3.1ポイント上回った。</p> <p>○百分率で表された割合について理解しているかどうかを問う問題の平均正答率は、県の平均と比べて14.9ポイント上回っている。</p> <p>●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかを問う問題の平均正答率は、全国の平均と比べて2.0ポイント下回っている。</p>	<p>・図形の性質を見出し力をさらに育むため、授業の中で図形の観察や構成、図形などの活動を意図的に増やして、図形の見方を考える。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は全国平均と比べて10.3ポイント上回った。</p> <p>○示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題の平均正答率は県の平均と比べて9.7ポイント上回っている。</p> <p>●示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかを問う問題の無回答率は県の平均と比べて2.9ポイント高い。</p>	<p>・文章から比例や反比例の関係を表に表すなどして捉え、式や言葉に表せるように繰り返し学習し、理解を深めるよう指導する。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は全国平均と比べて10.3ポイント上回った。</p> <p>○示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかを問う問題の無回答率は県の平均と比べて2.9ポイント高い。</p>	<p>・資料を適切に読み取る力を身に付けるために、普段の学習で、グラフや表を扱う機会を増やし、読み取ったことを文章で表現する活動を設ける。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」に肯定的に回答した児童の割合は、93%で、栃木県平均を7.6%上回っている。日頃の学習活動や特別活動、児童会活動等で自己肯定感を高める活動をしていることの成果が表れたと考えられる。これからも自分の目標をもって、そこに向かって前向きに活動していくことで自己肯定感を高めていけるようにしていきたい。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」に肯定的に回答した児童の割合は80.2%で県平均を18.5%上回っている。教科担任制において、各教科担当が積極的に教科でICT機器を活用して学習活動を行ったことで児童は自信をもって学習に向かうことができている。また、委員会活動など教科以外の活動でも積極的にICT機器を活用しているので、今後も引き続き活用していくようにしたい。

○「総合的な学習では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に肯定的に回答した児童の割合は88.1%で、県平均を3.7%上回っている。総合的な学習では児童が自分で課題を立てて、ICT機器や学校図書等を活用して情報を集めて整理したり、児童同士で話し合ったりする活動を行っていることで成果が表れたと考えられる。今後とも継続していくようにしたい。

●「英語の勉強は好きですか」に肯定的に回答した児童の割合は50.5%で県平均を約22%上回っている。本校の児童は精神的に落ち着いており、大人な部分もある。その中では他人と積極的に話したり、皆の前で発表したりする活動を好まない児童も一定数いる。また、教科担任制の指導においては外国語を専門的に学習することでゲーム等の楽しい活動ばかりでないことも「好き」ではない現状になっていることが考えられる。今後は専門性を生かしつつ、児童の興味関心を引く学習内容を考えて実践していくようにしたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	学年内で宿題の量や家庭学習のやり方について共通理解を図る。また、家庭学習や自主学習のやり方を指導する。児童が互いの自主学習ノートを見せ合い、よいところを参考にしよう担任が支援していく。	「自分で計画を立てて勉強していますか」の質問について、肯定的回答した児童は82.2%で、県平均を6.1ポイント上回っている。また「学校の授業以外の、平日の学習時間」が1時間以上ある児童の割合は60.5%であった。全国平均より3.4ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。」の肯定的割合は60.4%であった。全国平均より2.6ポイント下回っている。	各教科や特別活動等で自分の考えを伝えられるような活動を取り入れられるようなカリキュラムマネジメントの作成。	国語や総合的な学習等で身に付けた資料を用いた話し方や、話の組み立て等の技能を他教科でも意図的に活用する機会を昨年度に引き続き、取り入れて学習できるようにしたい。